

## 令和7年度 静岡県立浜松大平台高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年5月12日(月) 午後1時30分から3時30分まで  
2 会 場 静岡県立浜松大平台高等学校 会議室  
3 参加者 (1) 学校運営協議会委員 6名 (2) 浜松大平台高等学校職員 9名

### 4 内 容

- (1) 委員委嘱
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校運営協議会委員及び職員紹介(自己紹介)
- (4) 会長、副会長選出
- (5) 学校経営計画について
- (6) 意見交換・協議・承認
- (7) 授業・施設見学
- (8) 第2回以降の学校運営協議会について

### 5 今後の予定

- 第2回 学校運営協議会(9月16日(火) 午後1時30分から3時30分まで)  
全日制農業クラブ研究発表大会・定時制生活体験発表会(9/5(金))の報告  
第3回 学校運営協議会(11月25日(火) 午後1時30分から3時30分まで)  
文化祭(全日制11/9(日) 猿投祭・定時制11/11(火) 連綿祭)の報告  
第4回 学校運営協議会(2月10日(火) 午後1時30分から3時30分まで)  
令和7年度学校評価・質疑応答等・学習発表会(全日制1/30(金))報告

### 6 委員より

#### (1) 質疑応答

質問1 地域から求められる高校とは、具体的にどのようなことか？

高校が地域から求められるとは具体的にどういうことか、イメージが湧きにくい。

回 答 ・学校には全日制の総合学科と定時制の二つの課程がある。

- ・全日制は総合学科であり、中学卒業時点で進路が決まっていなくても、高校入学後に様々な系列(コース)を選び、将来のキャリアをじっくり考えることができるのが特徴である。この点が、中学生や地域の方に対して、「将来が決まっていなくても高校でじっくり考えられる」という選択肢を提供しているという意味で、地域に貢献していると考えられる。
- ・定時制は、30年ほど前に多部制単位制が導入されて以降、生徒が自分の自由な時間で、卒業までの期間(3年またはそれ以上)にわたって多様な内容を学ぶことができる。午前の授業に出られなくても午後から学ぶなど、時間の使い方が自由であるのが大きな特徴である。このような「自由度の高い学習環境を提供している」ことも、地域から求められる役割の一つだと考えられる。

質問2 就職者と進学者の割合はどのくらいか？

- 回 答 ・全日制の場合、就職する生徒は毎年30~40人程度である。残りのほとんどの生徒は、4年制大学、短大、または専門学校へ進学する。進学先としては専門学校が一番多い。
- ・定時制の場合、進路は多様である。進学を希望する生徒もいれば、就職する生徒、また既に仕事やアルバイトを継続している生徒もいるため、進路は非常に

幅広い状況である。

質問3 今の高校教育は、教育の延長として捉えているのか、それとも次の人生の予備的なものとして捉えているのか？高校教育の年齢の子供たちにはどのようなことが必要か？大人社会の「利益優先」といった考え方と対比させながら、高校教育の役割について質問がされる。

回答 ・浜松市内には多くの公立高校があり、それぞれ特色が異なる中で、この学校は最初から明確な進路が決まっていない生徒や、自分のペースで学びたい生徒のニーズに応える教育を行う必要があると考える。他の進学校のように特定の大学進学に特化した教育とは違いがある。地域のニーズに合わせて学校を存続させていくことが重要であると考えている。

・生徒が本当に学びたいことや興味のあることを見つけられるようサポートし、複数の進路選択肢がある場合には、生徒本人や保護者と十分に話し合いを重ねて適切な指導を行うことが、今の高校に求められている役割だと考えられる。これは、単に勉強ができなくても良いという場ではなく、生徒が将来を自分で切り拓いていくための力を育む重要な期間として捉えられている。

## (2) 感想及び意見

### ア 学校の魅力と強み

- ・施設の充実度が高く、大学のように褒められたことや、環境が良い、備品も揃っている点が挙げられた。
- ・選択肢の多さは、子どもたちが様々な可能性を導き出し、やりたいことを見つけ出すことに繋がるという期待が述べられた。
- ・学びを充実させ、自分の将来を自分で設計することに繋がるという視点が強調された。

### イ 生徒の成長と進路

- ・このような充実した環境の中で子どもたちがどう育つのか、何が生徒たちにとってプラスになったのか、その成果や実績が見えてくることへの関心がある。
- ・生徒が卒業する際に、学校で学んだことやキャリアプランについて母校の小学校で話す機会を設けるなどの連携も面白いのではないかという提案がある。
- ・高校生自身の話を聞く機会も興味深いという意見もある。

### ウ 生徒や保護者への配慮

- ・小中学校で辛い思いをしてきた子どもや保護者が多いため、この学校に来て安心できる場所を求めている場合が多い。安全性（安心できる場）はみんなにとって大切になっている点だと考えられる。

### エ 地域との連携と広報

- ・地元の中学校区出身でありながら、学校の中のことをあまり知らなかったという経験が語られ、今回初めて知った学校の様々な取り組み（花壇の手入れや小中学校との連携など）を、もっと地域に広めてほしい。